

サッカーコート一面分の面積を確保 コンセントプラグ型仮想アースが登場

「遠くのアースより近くのアース」をコンセプトとして、ボックス型やスティック型の仮想アース装置を展開している光城精工から注目の製品が登場する。まず一つ目は、人気のスティック型Crystal EpシリーズのラインアップにHDMIとUSB TypeCが加わったのと、もう一つは、コンセントプラグに差し込むタイプの仮想アース装置であるCrystal Eop-Gである。サッカーコート一面分の面積を確保したという仮想アース装置の実力を早速ご紹介する。

Photo by 田代法生

KOJO Crystal Eop-G

ACプラグ差し込み型仮想アース
¥198,000(税込)
※2024年7月発売予定



Crystal EpUC

スティック型仮想アース ¥36,300(税込)

Crystal EpHA

スティック型仮想アース ¥49,500(税込)

Specifications

- 【Crystal Eop-G】●仮想アース端子：コンセントプラグ型 NEMA規格 (5-15P) 対応●導体表面積：約80,000,000cm²●サイズ：φ38.5×78Lmm(端子や突起物含まず)●質量：約193g●付属品：保証書/マニュアル
- 【Crystal EpUC】●プラグタイプ：USB typeC プラグ●外観サイズ(径×全長)：φ12×59.5mm●質量：30.0g
- 【Crystal EpHA】●プラグタイプ：HDMI typeA プラグ●外観サイズ(径×全長)：φ18×65mm●質量：39.5g
- 【共通】●内部導体：高純度アルミニウム箔●内部導体表面積：11,000cm²●プラグ：真鍮、金メッキ●本体/キャップ：真鍮/Niメッキ●取り扱い：(株)光城精工



Text by
井上千岳
Chitake Inoue

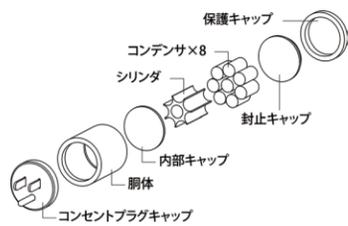
Crystal Eop-G

これまでの仮想アースとは 効き方がだいぶ異なる印象

機器のアース環境拡充をテーマに展開してきたKOJOだが、いよいよ電源アースにも取り組むことになった。研究の末に採用したのは、カーオーディオのキャパシターにも使われている電気二重層の素材である多孔質活性炭。微細孔が極めて多く、表面積を大きく確保することが可能だ。この電気二重層型コンデンサーを8本充填したのが本機の核心。表面積は実に8千万cm²に及び、サッカーコート一面分に相当するという。これまでとは桁が違っているのである。自宅では一応大地アースを取っているのですが、これを外したうえで本機のあるなしを比べてみた。久しぶりにアースを外した音はあちこちに棘が残って、響きも広がらず暗い音調になる。バロックなどヴァイオリンの手触りがもつさりして艶がないし、ピアノはむやみに線が太く重い。背景から空

間全体に暗い雲のようなものが覆っている感触で、コーラスもオーケストラも温度感が冷たく金属的な感じが残る。ざらつとした錆のようなものが貼り付いているイメージである。アースに落ちるべきノイズがこういう悪影響を及ぼしているわけである。そこで本機を空いているコンセントに挿してみる。あとは何も変えていない。音が出てくるとすぐに分かる。響きや質感が澄んで張りがある。これはアースをつないでいたときと同じ音だ。これまでの仮想アースとは利き方がだいぶ違う。バロックは出方が澄んでいるのだが、手触りがきめ細かくディテールの小さな凹凸がくつきりに見える。拡大鏡で見ていくように細部が明瞭になるのである。また空気がすっきりきれいになった。汚れっぽさがなく、楽器の響きが邪魔されることなく空中を飛び交っている雰囲気がある。弦楽器やチェンバロの音が伸びやかさを取り戻し、音楽の抑揚が生きてきたように感じる。ピアノはもつとタッチがきれいになっていく。鉄の棒を引っばたいたようだった先ほどと違い、弦

Crystal Eop-Gの構造



の鳴り方が音楽的である。そして余韻が大変豊かになり、それが空間へ引っかかりなくさらりと浸透してゆくのが見えるような気がする。背景ノイズが消えたのである。コーラスもこうでなければならぬ。空間に溢れかえるような余韻が透き通った光のように幾筋も交錯し、ハーモニーが立体的に何層にも重なって当たりの心地好いことこのうえない。オーケストラは鮮やかさが断然違う。一音一音の立ち上がり鮮明で、その音色も表情も彫りが深く明瞭だ。切れのよさも倍増したような印象で、色彩の豊かさやダイナミズムの大きさがまるで別ものようである。因みに電源ボックスに挿してみると、この方がさらに鮮烈でダイナミックだ。利き方が直接的という気がするが、この辺りは今後の研究課題としたい。



Text by
炭山アキラ
Akira Sumiyama

Crystal EpHA & EpUC

Crystal Epシリーズに HDMIとUSB-C用が追加

光城精工のCrystal EPは、エッチング処理したアルミの薄膜を細い筒の中へ、フィルムコンデンサーを思わせる整然とした巻き方で封入してある。薄膜の表面積は何と1m四方にも相当するという。表面積が大きいほど仮想アースの効果は増大する傾向があるから、この構成には驚いたものだ。いろいろな接続端子を選ぶことができる同シリーズだが、このたびはHDMIとUSB-C端子へ対応する製品が登場した。まずHDMIタイプを愛用のノートPCへ挿し、USB経由のPCオーディオで音を聴いてみた。クラシックスは一気にノイズフロアが下がり、弦やピアノの余韻がどこまでも伸びる。音像へ何となく積もっていった埃が吹き払われ、楽器本来の輝きを取り戻した感もある。PCからこれだけの伸びしろを引き出し

てくるのかと、驚きを禁じ得ない。ジャズはスッキリ抜けが良くなり、低域方向の厚みが増した。それでいてスピード感や音の縮まりに全く影響しない。これは本質的な音質向上である。大音量でも耳へまったく障らないものだから、ポリユームをどんどん上げたくなる。もともとパワフルな音源ではあったが、これがこんなに爽やかな鳴りっぷりになるとは想像していなかった。ポップスは人工的な音場が大幅に拡大、やはり微小域の再現が際立つのである。声は決して生々しいタイプの音源ではないが、それでもサ行の耳へつかないこと、風のようにスッキリ抜けていく表現には脱帽だ。USB-C端子は、スマホで音楽をヘッドフォン試聴しながら、C端子へ挿して音を聴き比べる。装着して一聴、大幅に音場が拡大し、圧縮音源だというのが分る。これがあまりスマホで音楽を真面目に聴いてこなかったのだが、これはじっくり取り組まねばならないぞ、と認識を新たにされた次第だ。しかしクリスタルEP、ピアノオーディオ機器以外でもこれほど効くとは。もったいない。いろいろ試したくなった。